

井戸から出土する土製馬と馬歯骨 ～井戸祭祀に関して～

田村 渉

古代日本において、土製馬と呼ばれる土で馬をかたどったものが出現した。この遺物はさまざまな場所から発見されているが、水に関連した遺跡からの発見が多いことから、水霊信仰にまつわる遺物であるといわれている。水に関連した遺跡のひとつに井戸があり、ここからも土製馬が出土している。また、井戸からは馬の歯や骨も出土している。これもまた水と関連した何らかの意味を持っているものである。井戸は古代の人々にとっては欠かすことのできない存在であった。現代では考えられないが、古代日本では水に対する、井戸に対する信仰というものが存在していた。論文では土製馬と馬歯骨の両者が井戸祭祀とどのような関わりをもつのかを考えることを目的としている。以下に各章ごとの流れを追うこととする。

第1章では、論文の目的を簡単に述べる。

第2章では、土製馬とはどのようなものであるかを述べ、また土製馬に関して行なわれてきたこれまでのさまざまな研究を順を追って紹介していく。

第3章では、井戸が古代人の間でどのように認識されていたのか、また井戸に関する信仰心とはいかなるものであったのかということ、井戸に関して行なわれてきた研究を中心に述べる。

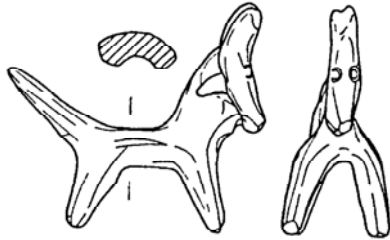
第4章では、井戸から出土している土製馬を取り上げ、形状や共伴遺物などといった出土状況の詳細を記述する。

第5章では、井戸から出土している馬歯骨についての研究を簡単に紹介し、出土例を数例取り上げる。

第6章では、土製馬を用いた井戸祭祀とはどのような形で行なわれていたのか、またその祈念目的とは何だったのかを考える。また馬

歯骨についてもどのような目的を持っていたのかを考え、井戸から出土しているこの両者の井戸祭祀との関わりを考察する。

第7章では、まとめとして論文の結論を述べる。



長岡京出土の土製馬